



洗 think

SEN-
THINK
OKUMURA

古いもの、を考える。

vol.02

Summer

2020.09.01

CO クリーンショップ おくむら



特集：いいことを知る

人の手を介し、古い機械を整備して。
非効率だけどいいものができるんです。

神藤タオル株式会社
代表取締役 神藤 貴志さん

日本のタオル発祥の地が大阪の泉州地域であることをご存知でしょうか。イギリスから入ってきたタオルを参考に、綿花の栽培地であった泉州で約130年前に日本初のパイル地がつくれました。「神藤タオル株式会社」は、泉州のタオルづくりを長くに渡り支えてきた創業113年を迎える老舗メーカーです。ものづくりの現場を訪ね、お話を聞きました。



**派手さはないけれど、品質は確か。
生産量が落ちても質にこだわりたい。**

神藤タオル株式会社
代表取締役 神藤 貴志さん

泉州タオルの特長は、吸水性の良さとふわりとした肌触り。おろし立てに触れた瞬間に、そのものの良さが実感できるほどです。しかし、コストや生産効率が追求される昨今、品質を守りながら、これからの方針を考え続けていたのだと。試行錯誤の末、未来を託したのは、泉州タオルが受け継いできた素晴らしい技術と職人の知見でした。

泉州タオルの持つ風合いは「後ざらし」という製法によって生まれるもので、一貫してこの技術を受け継いできたのが神藤タオルです。タオルを織る際の糸切れを防ぐために、糸には糊付けがなされます。また、機械オイルの付着や綿本来が持つ天然由来の不純物も含まれており、それらを取り除くためにタオルを織り上げてから漂白・水洗いをします。「糸の段階で水洗いすれば、染色やデザインの幅は広がりますが、私たちはあえて『後ざらし』による清潔感や柔らかな使い心地を大切にしています。『映え、はありませんが』と笑いますが、その言葉には品質への自信が感じられます。

神藤さんは泉州タオルの技術を生かし、3年前に自社ブランドを

立ち上げます。主力のインナーパイル地の開発に一役買ったのは、80歳になる工場長でした。ガーゼの内側にパイルを編み込む特殊な織り加工は、最新の機織り機ではつくることができず、工場に残る古い機械でのみ加工が可能でした。「昔からタオル職人は機(はた)大工とも呼ばれており、今も職人たちが日々機械の調整を行っています。工場長の経験と技術があったからこそ完成した製品です。

職人の技術を継承し、古いものをメンテナンスすることは効率の面ではマイナス。でも、確実にいいものができるんです。最新機に比べると生産量は落ちるけれど、これからも質にこだわったものづくりを続けていきたいと思います」。

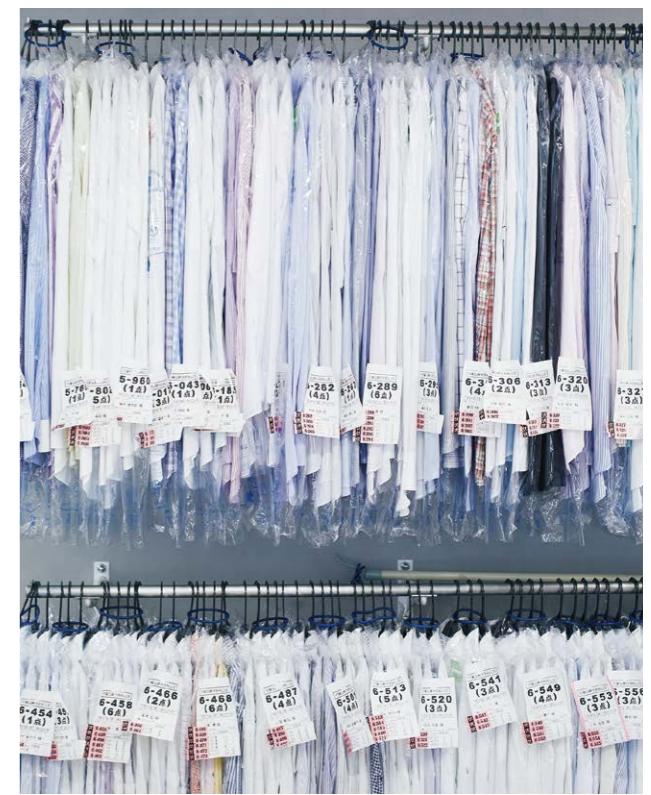


奥村香理社長と神藤社長。生産・コスト効率が落ちようとも品質を守る姿勢や職人を大切にする思いなど、業種は違えど多くの共通点がありました。



店頭に立つスタッフは、お客様の多彩な要望をお伺いするため
に生地や洗い方、クリーニングのさまざまな種類と工程など、あら
ゆる知識を身に付けなければなりません。お客様から洗濯物を
お預かりする際は、表示タグ、ポケットの中、穴やほつれなどを
しっかりと確認。その後、生地の特性に応じた洗い方のご提案
や好みをヒアリングします。

Yシャツのポケットは、ホコリを溜めた状態でプレスをするとホコリ
が塊となって汚れのように透けて見えるため、事前に1点1点丁
寧に掃除を行うのもおくむら独自のサービス。洗い上がった商品
の袖を整えるのもすっきりと美しい状態でお渡しするためのこだ
わりです。お客様に最も近い場所で、細やかなところに目と心を
配る接客サービスが、おくむらの高い品質を支えています。



お仕上がり品はアイテムごとに番号順で整理。美しく整頓することもミスなく
お客様へお届けするサービスの一環です。



おくむらの「いいこと」

ふんわり、さらりな手触りに仕上げる 布団・毛布のクリーニング

人間の体は冬でも寝ている間に汗をかいており、天日干しだけでは布団に臭いが残ってしまいます。おくむらの布団・毛布のクリーニングは、水洗いすることで、寝具に残る汗や汚れをしっかり落とし、防臭や抗菌、防ダニ加工なども同時に行うことができます。タンブラー乾燥では、素材ごとに時間を変えるなど、絶妙な加減を調整。さらに、丸1日、風通しの良い場所で干すことにより、太陽の下で乾かしたような自然な風合いに仕上がります。機械での洗いと乾燥だけでは、生地に傷みが出てしまうため、要所要所で手を加えて『ちょうどいいあんぱい』に仕上げるのがおくむら流です。お気に入りのものを少しでも長く使い続けていただけるよう、手間と時間を惜しません。

いいものは、いい技術で。

おくむらの「Tシャツクリーニング」

カジュアルからビジネスシーンまで、1年を通して活躍する機会が多いTシャツ。

最近では、カジュアルながら1万円を超えるものや、ハイブランドが手がける10万円前後の高価なものもあります。そんなTシャツは、形や素材感を損なわないよう、クリーニングに出すことをおすすめします。

おくむらでは、水洗い・脱水の後、衣類の小じわを取り、立体乾燥機へ。最後はアイロンの蒸気で生地を引き締め、元の形に戻しています。プロの技術でプレスをすることで、家庭で洗濯するよりもシルエットがきれいに、そしてスタイリッシュな仕上がりに。肌に感じる上質感をぜひお試しください。

ブランドTシャツクリーニング 1,800円



クリーンショップ おくむら

www.cleaning-okumura.jp

店舗情報など詳しいことはホームページをご覧ください。



clean_shop_okumura



@clean_shop_okumura

SEN-
THINK
OKUMURA

vol. 02
Summer
2020.09.01